



池と子供

附屬幼稚園 町田 行子

「アッ、ゐるよ〜。」

さいふ聲に、皆が一心に水の中を見つめる。橋の下には、金魚が十二、三匹集まつてゐる。入園式の翌日、幼稚園のすべてのものに未だなれない小さな子供達が、先づ見出した喜びは、この金魚であつた。

數日経つたある日、一人の子供が、ふみ思ひついたらしく、

「幼稚園のお池には龜がゐらないのね。もうせん、僕のお家に入るたの。だけきもう居ない。死んぢやつたの。」

と言ふ。お池の鯉や、金魚を見て、自分の古いお友達の龜の子を思ひ出したのであらう。そのかめの、お家中で一番

可愛がつて呉れ、又、いぢめられもした、最も親しい友は、きつみこの子供であつたに違ひない。

「お家にもお池があるの。金魚も鯉もゐる。」

「私のお家にも金魚ゐるのよ。」

等々、うれしさうな顔が並ぶ。

× × × × ×

お池の水は、おまゝごごの御馳走にもなる。お藥罐、お土瓶、コーヒーポットや小さなお茶碗に一ぱいに入れては持つて行かれる。

又、バケツに満たされて運ばれては、お砂場の井戸さなり、池さなり、川さなる。

此の流れは、お山の岩の間から湧き出で、芝山の間を流れて瀧ぎなつて二段、三段。瀧壺には岩があり、水は二つに分れる。二つの流れが合した所は廣い海だ。そこでは屢々觀艦式が催される。積木の軍艦がずらり整列した所は實に偉容である。子供達は、涯しない海に軍艦旗をかゞげ、波を蹴つて堂々進む、我が軍艦々長、或は艦隊司令長官となつてゐるのであらう。小さな手で、さかまく怒濤を起し乍ら、軍艦は進む、進む。

「僕は陸奥だ。」

「僕のは出雲だよ。」

「これは赤城だ。」

或は戰鬪艦、巡洋艦、あるひは驅逐艦、あるひは航空母艦なる。

古びた積木は三笠艦である。

「三笠は何時でも同じ所にゐるんだね。」

「うん。さうだよ。だから、こゝに浮かせてをかう。」

三笠艦は岸邊の淺瀬に置かれる。

そして僕等の海軍の觀艦式は威風堂々も行はれて行く。

廣い海から一段、水の落ちた所は流れの幅が少し狭くなり、小さな橋が出来て居る。然し、この作られた橋よりも、子供の好きなのは、長い積木を三本位集めて向ふ岸へわたして、作つた橋である。その橋を何度も往つたり來たりする。

三本の積木が時には二本になり、時には一本にもなる。せまい一本橋の上に、一、二人がお互につかまりあひ乍ら乗つて、大喜びなのは、小さな冒險をしてゐる樂しさであらう。

更に一段低くなるさ、靜かな流れである。一方の岸邊には芝の山や、若芽に萌ゆる柳のみぎりのかげをうつし、深い底には、眞青に澄んだ高い空がひろがる。

その碧さの中に、みんなであげた日の丸が、ハタ／＼風にひるがへり、日の光りに輝いて居る。

空にふはりま浮んだ白い雲、サー／＼はいた様な淡い雲も姿をうつしてゐる。

その流れに、小さな子供達がラシヤ紙のお舟を浮べる。ヒラ／＼散つて來る櫻の花びらをお客様にのせて……

時には、お山から取つて來た笹舟が浮べられる。そして

風に送られる笹舟レースに、小さな手を叩く。

× × × ×

流れの下の方には、橋がある。橋の下は非常に深くなつてゐて、鯉や金魚のお家になつてゐる。

子供は、鯉が、金魚が、可愛くてたまらない、好きで面白くてたまらないので、終にはつかみたくなる。追ひかけまはしてみたくなる。それをよく知つてゐて、あし音をきゝつけるま直ぐ、水が動き始めようものなら忽ち、金魚達は四、五匹つゝ列を作つて、暗い橋の下のお家に歸つて行つてしまふ。すばやい鯉はサーッ身をひるがへして、またゝく間に姿を消してしまふ。

所がある時、逃げおくれた鯉の一匹は、岸に沿つた石のトンネルに身をひそませた。が、幸か不幸か、あまり立派な體格の鯉は、トンネルの長さに餘つて、チョットばかり尾がはみ出されてしまつたのである。尾はすぐにめざさい子供達の眼に見つけ出された。

大喜びで早速手をつゝこんで、尾をギュッつかまうゝとした途端、スッ尾は石かげにかくれて、トンネルの向ふ側の口から、ちよつと黒い頭が出る。今度は頭の方。ヌルッさはつたかと思へばもう、頭は引込んで尾を出す。尾

にさはれば頭が出る。頭にさはれば尾が出る。これを何度繰返したであらう。

お池のまはりに重なり合つた顔は、嬉しささ笑ひに溢れてゐる。その中に、隙を見出した鯉はスルリトンネルを抜けて、終に逃がれ去つてしまつた。

あこには、満足した様な可愛いゝ聲で。

「僕、尾にさはつたよ。」

× × × ×

子供達の歸つたあこ、静かなお庭にひゞく水音にさそはれて、砂利をふみしめ乍ら足音をしのばせて行つてみる。お池一面に浮んだ櫻の花片のたゞよふかげに、緋鯉や真鯉、小さな金魚が皆、お家から出て、悠々泳いでゐるのが見られる。何時までみても、飽きる事がない。

今度、可愛いゝおたまじやくしもたくさん入れられたさうである。生憎の雨で未だ見に行かない。

晴れた日に、お庭へ出でるのび〜遊ぶ子供達が、お池の中に、尾をふつてチョロ〜泳ぐおたまじやくしを見出した時、みんなに喜ぶ事であらうか。

新しくお仲間入りした可愛いゝお客様に、みんな歓迎ぶりを示すであらうか。